

## 式 辞

海を隔てて並び立つ立山連峰に、春の光りが温かく降り注ぐ頃となりました。

本日ここに、来賓の皆様のご臨席、並びに保護者の皆様のご参列のもと、氷見市立北部中学校第五十二回卒業証書授与式をこのように盛大に挙行できますことは、誠に喜ばしく、皆様のご出席に対し心より御礼申し上げます。

さて、126名の卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。  
卒業証書を手にした今、皆さんにはどんな景色が見えていますか。

私は、皆さんの学年の雰囲気、とても好きなのところがあります。  
それは、頑張る人を全力で応援するところです。

新型コロナの制限が緩和された令和五年、皆さんが一年の球技大会のことです。クラス対抗戦で大きな盛り上がりを見せるとともに、女子の試合中には男子の応援合戦が始まるなど、体育館が割れんばかりの歓声であふれていました。

その盛り上がりを見たとき、「こんな元気に人を応援できる学年は、きっと行事や部活動で力を発揮するだろう」と、思っていました。

そんな私の予想を大きく超えて、皆さんは様々な場面で躍動しました。

運動会では、競技開始から大きな声援が飛び交い、応援合戦においては、1、2年生をリードして各団が工夫を凝らした応援を披露し、最後には、テーマである「Ring 繋がる絆」を全校生徒で表現しました。

中学校音楽会や合唱コンクールでは、最高学年として完成度の高い合唱を披露し、芸術文化館のホールを感動的なハーモニーで包みました。

生徒会においても新たな試みを企画し、全校生徒が楽しめる行事を開催しました。

皆さんの人を応援する心は、普段の挨拶などにも表れていて、明るい挨拶、そして昨日私がもらった卒業証書などから、本当にたくさんの元気をもらいました。ありがとうございます。

また部活動では、勝利に喜び、失敗や敗北に涙しつつ、仲間と共に大きく成長しました。そして、多くの部が県選手権や北信越大会に出場、さらに野球部、ソフトテニス個人において全国大会出場を果たすなど、氷見北部の名を県内外に響かせました。

一方で、このような素晴らしい思い出ばかりではなく、三年間の日々の中には、時に自分自身のこと、時に人間関係で苦しみ、人知れず涙した辛いことや悲しいこともあったと思います。

しかし、辛いことを乗り越えた分だけ、あなたの心は強くなっています。

悲しいことがあった分だけ、人に優しくなっています。

決して自分自身の三年間を否定せず、胸を張って卒業してください。

皆さんは、これから自分自身で選んだ道へと歩いていきます。

ただ、自分で選んだ道であっても、「別の道の方がよかったかも」と後悔する日が来るかもしれません。しかし、過去を変えることはできません。変えられるのは未来です。

昨年亡くなられたフランスの俳優ブリジット・バルドーは、

「人生に大切なのは、どの道を選ぶか迷うことより、選んだ道をどう生きるかだ」と言葉を残しています。

これから先、予測困難な時代を生きる皆さんは、いくつもの分岐点において、どの道を進もうか迷うこともあると思います。それでも選んだ道を自分で正解にするという強い気持ちで、困難なことにも挑戦し、成長していくことを期待しています。

さて、保護者の皆様、本日はお子様のご卒業、誠におめでとうございます。

保護者の皆様にとって、この三年間は決して平坦な道のりではなかったかもしれません。子どもたちは様々な壁に直面しながらも、ご家庭での温かい支えがあって乗り越えることができたと思います。

今後とも、子どもたちが自らの道を進んでいくその歩みを、温かく見守っていただければ幸いです。

また、これまで本校の教育活動にご理解とご協力を賜り、心から感謝申し上げます。

結びに、ミラノ・コルティナオリンピックに挑んだ日本選手団 チームジャパンは「ともに一歩踏み出す勇気を」のスローガンのもと、勇気をもって戦い、私たちに多くの感動を届けてくれました。

卒業生の皆さんも、勇気をもって Next Stage へ踏み出し、輝かしい人生を歩いていくことを願い、式辞といたします。

令和八年三月十二日

氷見市立北部中学校長 櫻 打 佳 浩